

母と女性教職員の会全国集会



レポート発表の五十嵐さん

8月1・2日に東京の板橋区立文化会館、日本教育会館、連合会館において開催されました。高教組からは、女性部常任3人・PTA2人・本部2人の計7人が参加しました。1日目は、学習院大学大学院法務研究科の青井美帆教授の「平和をつくっていきましょう。9条と24条のつかいかた」と題して、「改憲の何が問題なのか」というテーマでの講演がありました。「従来は内閣法制局長官が内閣が暴走しないように手綱を握る役をしてきたが、現在の長官はその役を十分に果たしていない。次々と国の権限を強化する方向の法案が通されてゆく現状に危機感を抱かざるを得ない」というお話に、現状に対する認識の甘さを改めて反省させられました。講演に続いては、「う〜み」さん

の歌とトークの公演がありました。親が中学校教員というう〜みさん、「教員の子どももあるある」(がんばっても先生の子どもだから当然と言われる、夏祭りに一緒に行きたいと言ったら見回り指導があるからダメ)に会場はしみみりしたり、爆笑したりで共感が広がりました。2日目は各分科会に分かれて話し合いが行われました。第3分科会では盛岡北高の保護者の五十嵐さんが、「本州一県土の広い岩手県、高校進学における課題」というテーマで広い県土を持つ本県の現状を全国の参加者に発表しました。組合員の皆さんからのハンカチカンパが、お母さん2人の旅費となり、このような活動ができています。ご協力ありがとうございました。



岩手県の参加者

両性の自立と平等をめざす教育研究会

8月3・4日に東京の日本教育会館において開催されました。1日目の講演は、東京大学大学院教育学研究科の本田由紀教授の「ジェンダーをめぐる日本社会の現状と課題」として、なぜ国家が家族に干渉するのかという内容のものでした。いま求められているのは、家庭「教育」支援ではなく、家庭支援であり、具体的には、個人の内面や親密な関係のあり方に関する自由・多様性・平等性の尊重、個人と社会を存続可能にするための生活基盤と有用な知識・スキルの保障、平和と民主主義の実現に向けての国際的貢献、そのための社会のモデルの「結びなおし」であるというこ



本田由紀教授の講演

とでした。2日目は、ジェンダー平等や働き方改革、デートDV、自分の性の考え方、等をテーマに4つの分科会に分かれて学習を深めました。